

第3学年国語科学習指導案

生徒 3年B組 (男子16名 女子13名 計29名)
 指導者 長畑 由美子

- 1 単元名 いにしへの心と語らう
 学習材名 「君待つと一万葉・古今・新古今」 (光村図書3年)

2 単元のねらい

中学校最後の古典学習の総仕上げとして、日本の伝統文化的な言語文化を担ってきた和歌が取り上げられている。歴史的背景を踏まえ、表現の工夫にも着目させながら、和歌の世界を味あわせたい。第3学年「読むこと」の学習における、ア「文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと」、ウ「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」、エ「文章を読んで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」を指導事項とする。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」の学習におけるア(ア)歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」を指導事項とする。

これをふまえ、英語助手の先生に和歌を一首紹介するという状況設定をし、目的意識をもって主体的に読み進めさせる。また、生徒の興味・関心を大切にしながら和歌に親しませるとともに、和歌に表れた昔の人の心情や情景を読み取り、和歌のよさに気づくことを、鑑賞文を書くという言語活動を通して指導する。

3 「聞くこと・話すこと」の指導の工夫

単位時間の中に、ペアやグループで交流する活動を取り入れる。さまざまな形態の中で、聞いたり、話したりする経験を多くもつことで、その力はついてくると考える。その際に、「聞きたい・話したい」という意欲をもたせることを意識し、活動場面作りを工夫する。

生徒は、学級や学校生活での良好な人間関係をもとに、おおむねスムーズにグループ学習を行ってきている。この単元では、和歌の鑑賞と鑑賞文で交流の場面を設定する。自分の想像したことや自分がまとめた鑑賞文では気づけなかったことを、交流を通して深めさせていく。他の人の見方を聞くことで自分の鑑賞が広がっていくことや、自分の見方を話すことで仲間の鑑賞が広がっていくことを価値づけながら、意欲につなげていきたい。交流する際には、交流の目的や観点を明確にすることで、主体的で活発な交流を促し、交流の意義を実感させていく。

4 単元の指導計画

指導計画 (全5時間 本時3/5)

次	時間	・主な学習活動と ○「聞くこと・話すこと」に関わる活動
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しと目標をもつ。 ・和歌を音読し、和歌のリズムに慣れる。 ○音読を聞き合う。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情景や心情を想像しながら和歌を読み、グループで紹介したい和歌を一首選ぶ。 ○各自が選んだ和歌とその理由を交流する。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい和歌の情景や心情を想像し、選んだ和歌への理解を深める。 ○グループで、想像する情景や心情、作品のよさを交流し合う。
	(本時)	
3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい和歌の鑑賞文を書く。 ○鑑賞文を読み合い、感想を交流する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が紹介したい和歌を一首選び、鑑賞文を書く。 ○鑑賞文を読み合い、感想を交流する。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・和歌の情景や心情、作品のよさを考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・作品の背景や表現の工夫に注意して、和歌に読まれている情景や心情をとらえ、作品のよさに気づく

ことができる。

【読むこと】

(2) 聞くこと・話すことを培う活動

○選んだ和歌について、読まれた情景や心情を想像し、グループで交流し合う。仲間の意見への共感や認め合いを大切にしながら交流の活発化を図り、疑問点や異なる意見も率直に出せるようにしていく。司会は立てるがまとめることはせず、和歌への見方を広げたり、深めたりすることを重視する。交流後には、お互いが気づかない視点を補完し合えたことを価値づけていく。

(3) 展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 (◇評価)
導入 5分	<p>1 前時の学習内容を振り返る。 (1) 和歌4首の一斉音読 (2) グループで選んだ和歌一首とその理由の確認</p> <p>2 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題 紹介する和歌の情景や心情を読み取り、よさをまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・五,七,五,七,七のリズムを意識しながら,声に出して味あわせる。 ・選んだ理由が,和歌のよさにもつながっていることを意識させる。 ・他の人の感じたことや考えたことから,和歌の読み取りを深めていくことを確認する。
展開 30分	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 鑑賞の観点を確認する。 和歌：春過ぎて 夏来たるらし しろたへの 衣干したり 天の香久山</p> <p>○情景 ・いつ 5月 ・どこで 御所 ・だれが 持統天皇 ・どうする (どうした) 香具山を眺めている ・音 ・色 緑と白 ・匂い 草花</p> <p>○歌人の心情 夏が来た 気持ちが良い ○疑問 どこから見ているのか ○自分が感じたこと さわやかな和歌</p> <p>(2) 紹介する和歌の情景や心情を個人で考える。</p> <p>(3) 和歌に読まれた情景や心情を交流し合う。 ○情景 ・いつ ・どこで ・だれが ・どうする (どうした) ・音 ・色 ・匂い</p> <p>○歌人の心情 ○疑問 ○自分が感じたこと</p> <p>(4) 交流の成果を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの和歌を提示しながら確認する。 ・使われている語句や脚注,資料に着目させる。 ・すべての発表を肯定的に受け止めていくが,使われている語句等からかけ離れている場合には,問いかけを行い,さらに考えさせるようにする。 ・作品のよさに目を向けさせる。 <p>・3分程度とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点に沿って,和歌の言葉に注目させ,想像させていく。 ・意見を交流しやすいように,3人~4人組の小グループで行う。 ・あらかじめ決めていた司会の進行により進める。 ・情景や心情,よさについて,まとめることはせず,自由に意見を交流させる。 ・伝えることを意識しながら,自分の考えを発表させる。また,他者の考えを受容しながら聞き,質問や意見を交流し合う。 ・交流の記録は各自メモとして残し,鑑賞文書きの言葉としてためさせる。 <p>◇情景や心情,作品のよさを考えようとしている。(観察・学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をしながら,交流が深まっているグループをチェックしておき,3グループ程度を指名する。
まとめ 15分	<p>4 学習をまとめる</p> <p>(1) 交流を通して,深まった情景や心情,作品のよさをまとめる。 ○よさを発見する観点 ・リズムや言葉の響き ・情景 ・心情 ・語句の使い方 ・表現技法</p> <p>(2) 各自が学習シートにまとめたものを,発表し合う。</p> <p>(3) 自己評価 (振り返り)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「交流から得たもの」として記入させる。 <p>◇交流を通して,情景や心情を想像し,和歌のよさをまとめているか。(学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名に発表させながら,交流の価値付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・気づいたことや考えたことを記入させ,数名に発表させる。 ・次時の鑑賞文書きにつなげる。